

古民家活用の専門家や職人からスキルを学ぶリノベスクールの教材として、実際の古民家を再生したプロジェクトである。実地体験として腐朽していた一部を解体し、茅葺きが見える土間空間を拡張した。会議室や職場体験等の地域活性化の施設として活用される。



築100年を超える茅葺きの古民家を 自分たちの手で改修する、全6回のリノベスクール

“古民家を自分で改修したい”、“古民家の改修方法を学びたい”と考えている方に向けた、古民家のDIY改修を体験し、古民家改修のスキルを習得する講座です。実在する古民家を対象に、こわす（解体）・つくる／みがく（建築工事）・魅せる（内装）を体験します。眠っていた古民家が蘇るプロセスを直接体験することができます。

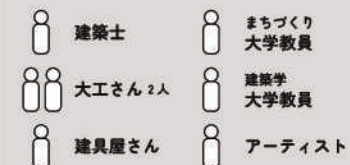
第1回 古民家をこわす・なおす



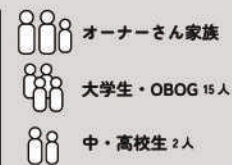
第3・4回 古民家をみがく



講師たち



参加者



第2回 古民家をつくる



第5・6回 古民家を魅せる



リフォームの動機／設計・施工の工夫点／施主の感想・満足度／住宅の価値を向上させた内容など

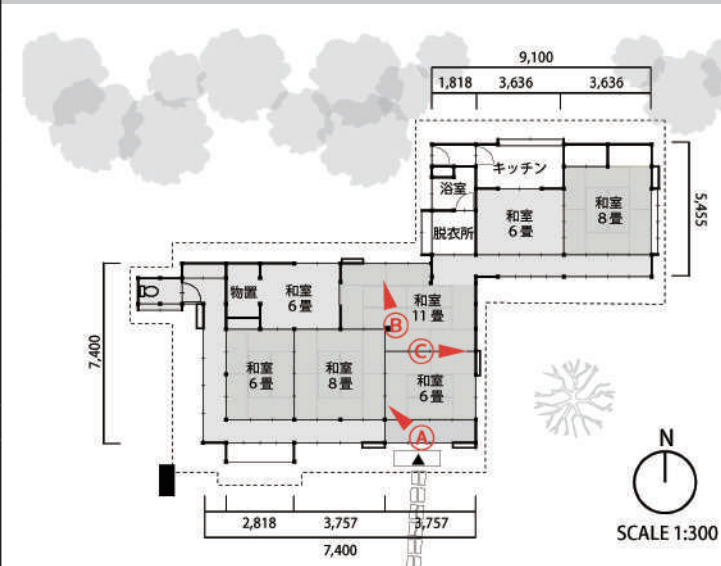
リノベスクールとは/ 実在する古民家を”教材”とし、産学官金の専門家や職人など多様な人材が講師となり、古民家活用のソフト・ハードを学ぶスクール。現場でのリアルな体験を通じ、古民家活用のスキルと価値観を育む新しい教育プログラム。	設計・施工の工夫/ 設計・施工は専門家・職人指導のもと、建築・都市計画を学ぶ大学生が実践した。腐朽した北側和室と土間天井は解体し、茅葺きが見える吹き抜けの土間を拡張した。
対象の古民家/ 過疎地域に立地し、空き家となって30年が経過していた茅葺きの古民家をオーナーが購入したものの、活用法に悩み、一時は解体も考えていた。市への相談をきっかけにリノベスクール(ハード講座)の実施に至る。	今後の活用計画/ 日帰りのワーケーション、地元企業の会議、中学生の職場体験等、地域活性化につながる活用を目指し、各種手続きを進めている。
	社会課題に資する取り組み/ a.伝統民家の空き家の有効活用、b.DIYリノベの担い手育成、c.古民家の新たな価値を創出し流通促進に貢献

審査基準のうち右記に該当する場合は ☒ a.ストックの有効活用 / ☒ b.深刻化する技能者不足への対応 / ☒ c.既存住宅流通・リフォーム市場の拡大・活性化

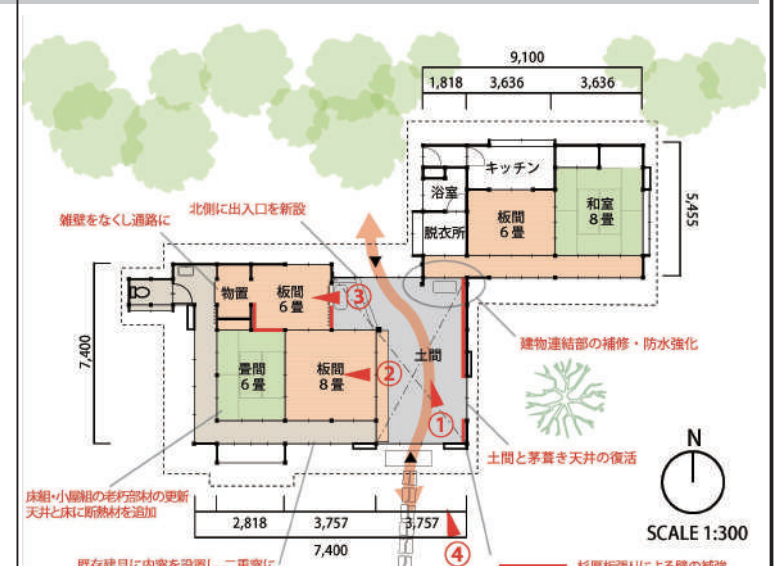
性能向上の特性	特に配慮した事項	lw 値、ls 値
耐震性能 (壁量の確保・老朽部材の更新)	真壁の土壁部を杉厚板張りとし耐震性を上げた / 床組・小屋組の老朽部材を更新した /	リフォーム前
断熱性能 (断熱材の追加)	天井と床に断熱材を追加した / 既存建具に内窓を設置し、二重窓とした	リフォーム後

データ								
所在地	茨城県かすみがうら市		新築竣工年	1920 年	築後年数	105 年	施工期間	100 日間
該当工事床面積	116.35 m ² / 総工事床面積		116.35 m ²	該当部分工事費	300 万円 / 総工事費		500 万円	
居住者構成	65 歳以上： 2 人 / 40 ～ 64 歳： 2 人 / 15 ～ 39 歳： 人 / 14 歳以下： 2 人 / ペット：							

リフォーム前の平面図



リフォーム後の平面図



リフォーム部位： ■居室/ ■台所/ □浴室/ ■便所/ ■洗面所/ ■廊下/ □階段/ ■玄関/ □エクステリア/ □マシヨ共用部分/ □その他